

平成 21 年 6 月 10 日

各 位

会 社 名 株式会社 J C L バイオアッセイ
代表者名 代表取締役社長 靱山 邦男
(コード番号 2190 大証ヘラクレス)
問合せ先 管理担当取締役 久保 明
電話番号 06-4863-5020

「平成 21 年 3 月期 決算短信」の一部訂正について

平成 21 年 4 月 30 日に発表いたしました「平成 21 年 3 月期 決算短信」につきまして、内容に一部訂正
がありましたので、下記のとおりお知らせいたします。

なお、訂正箇所には下線を付しております。

記

訂正箇所①

3 ページ 1. 経営成績 (1) 経営成績に関する分析

(訂正前)

<省略>

その結果、当連結会計年度の売上高は 2,488,479 千円 (前年同期比 7.0%増)、営業利益は 502,435 千円 (前年同
期比 40.6%増)、経常利益は 437,321 千円 (前年同期比 32.2%増)、当期純利益は 259,096 千円 (前年同期比 11.3%
増) となり、すべての項目につきまして会社設立後最高の結果を残すことができました。

<省略>

(訂正後)

<省略>

その結果、当連結会計年度の売上高は 2,488,479 千円 (前年同期比 7.0%増)、営業利益は 502,435 千円 (前年同
期比 40.6%増)、経常利益は 437,321 千円 (前年同期比 32.2%増)、当期純利益は 259,096 千円 (前年同期比 11.3%
増) となり、売上高、営業利益及び経常利益につきまして会社設立後最高の結果を残すことができました。

<省略>

訂正箇所②

4 ページ 1. 経営成績 (2) 財政状態に関する分析

(訂正前)

<省略>

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果得られた資金は、620,055 千円 (前年同期は 260,578 千円の獲得) となりました。これは主に、税
金等調整前当期純利益の計上額 436,891 千円、減価償却費の計上額 114,536 千円、売上債権の減少額 61,453 千円、
たな卸資産の減少額 49,714 千円、未払金の増加額 23,999 千円、賞与引当金の増加額 18,281 千円、前受金の増加
額 17,692 千円、退職給付引当金の増加額 15,856 千円、株式交付費の増加額 12,449 千円及び法人税等の支払額
158,653 千円によるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は、403,412 千円 (前年同期は 28,780 千円の使用) となりました。これは主に、有

形固定資産の取得による支出 351,503 千円、差入保証金の差入 47,107 千円が計上されたことによるものであります。

<省略>

(訂正後)

<省略>

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果得られた資金は、620,055 千円（前年同期は 260,551 千円の獲得）となりました。これは主に、税金等調整前当期純利益の計上額 436,891 千円、減価償却費の計上額 114,536 千円、売上債権の減少額 61,453 千円、たな卸資産の減少額 49,714 千円、未払金の増加額 23,999 千円、賞与引当金の増加額 18,281 千円、前受金の増加額 17,692 千円、退職給付引当金の増加額 15,856 千円、株式交付費の増加額 12,449 千円及び法人税等の支払額 158,653 千円によるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は、403,412 千円（前年同期は 28,752 千円の使用）となりました。これは主に、有形固定資産の取得による支出 351,503 千円、差入保証金の差入 47,107 千円が計上されたことによるものであります。

<省略>

訂正箇所③

5 ページ 1. 経営成績（4）事業等のリスク

(訂正前)

<省略>

②財務安定性について

当社の平成 21 年 3 月期における有利子負債（1,120,193 千円）の総資産に占める比率は 35.0%と高い水準にあります。当社グループでは、国内及び海外の業容拡大に伴い設備投資を必要とするなど相応の資金需要が見込まれます。今後は自己資本の充実を図りながら、資本市場からの調達と借入金のバランスを考慮しつつ資金調達を実施していく方針であります。適時、かつ当社グループの希望する条件で実行できるとは限らないため、当社グループの事業展開上の制約要因となる可能性があり、当社グループの財政状態及び経営成績に影響を与える可能性があります。

<省略>

(訂正後)

<省略>

②財務安定性について

当社の平成 21 年 3 月期における有利子負債（1,203,676 千円）の総資産に占める比率は 37.7%と高い水準にあります。当社グループでは、国内及び海外の業容拡大に伴い設備投資を必要とするなど相応の資金需要が見込まれます。今後は自己資本の充実を図りながら、資本市場からの調達と借入金のバランスを考慮しつつ資金調達を実施していく方針であります。適時、かつ当社グループの希望する条件で実行できるとは限らないため、当社グループの事業展開上の制約要因となる可能性があり、当社グループの財政状態及び経営成績に影響を与える可能性があります。

<省略>

以上